凡

### 1.秋田県北地域の課題

## ①救急医療施設へのアクセス

○秋田県北地域の基幹病院である北秋田市民病院※に60分で到 達出来ない地域が広く存在(図1) (秋田県北地域では人口の約2割 (約4.8万人)が60分圏域外) ※北秋田市民病院(H22.4.1開院) 「秋田県医療保健福祉計画(H20.4)」 において3次救急医療機能整備を決定

# ②災害発生時における幹線道路の通行止め

- 〇能代市~大館市間の国道7号は災害に対し脆弱な区間が存在(図2)
- 〇H19豪雨では米代川の河川増水に伴い国道7号沿線集落に避難指示が発令 救援・救助活動を要する地域に対し信頼性の高い緊急輸送道路が未確保(図2)

図1 北秋田市民病院60分圏域図(現況)

〇災害による通行止めが発生した際には、広域迂回が強いられる(図2)



## 2.原因分析

# ①高速ネットワークが未整備

- 〇二ツ井白神IC~小坂JCTの区間の高速道路が不連続のため、速達性の確保が困難(図3)
- 〇二ツ井白神IC~小坂JCTの区間の事業中箇所が供用しても、県北地域では依然として、約5千人が第3次医療施設に60分で到達出来ない(図3)

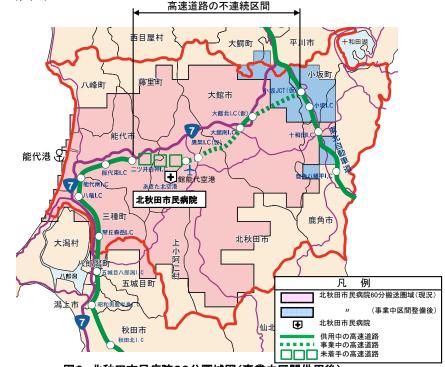


図3 北秋田市民病院60分圏域図(事業中区間供用後)

### ②道路の防災機能が不十分

〇秋田県北地域を通過する国道7号は第1次緊急輸送道路であるが、過去 に何度も通行止めになる等、耐災害性が低く、またネットワークの多重性 が確保されていない(図2)

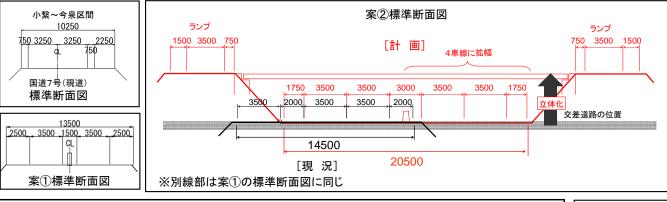
### 3.政策目標

①救急医療施設への速達性向上

②緊急輸送道路の確保

# 秋田県北地域における計画段階評価

4.対策案の検討 	【案①】全線新設案	【案②】現道活用案 (現在の道路の機能を高め、脆弱部のみ別線)	
救急医療施設への速達性向上 (指標:救急医療施設の60分圏内人口の改善)	高速走行により速達性が向上  秋田県北地域(人口26.6万人)における 第3次救急医療施設60分圏人口(カバー率) 【現 況】約21.8万人(82%) 【事業中区間整備後】約23.6万人(89%) 【整 備 後】約24.1万人(91%)	一般道であるが、アクセスコントロール(交差点立体など)により 速達性は向上 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
緊急輸送道路の確保 (指標:国道7号(災害に対し脆弱な区間)寸断時 における能代市と大館市の所要時間)	国道7号(災害に対し脆弱な区間)寸断時にも緊急輸送道路を確保 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	国道7号(災害に対し脆弱な区間)寸断時にも緊急輸送道路を確係 	
コスト	約570億円	約490億円	
総合評価	Δ	0	



対応方針案:案②による対策が妥当

#### 【計画概要】

- ・路線名:ニツ井白神~あきた北空港
- ・区間:秋田県能代市二ツ井町駒形~北秋田市脇神
- 概略延長:約18km
- ・標準車線数:2車線(二ツ井バイパスの活用部は4車線に拡幅)
- •設計速度:80km/h
- ・概ねのルート: 図8案②のとおり



4 ┶ᄷᆕᄼᄊᆜ

#### (参考)当該事業の経緯等

#### 地元調整等の状況

H23年2月:アンケートで地域の課題と政策目標、対策案に対する意見を聴取 H23年8月:東北地方小委員会は計画段階評価として案②が妥当と判断

H23年10月:公共事業評価専門委員会(秋田県・あきた北空港西線部)

#### 地域の要望等

H21年 9月:東北経済連合会長が国土交通大臣に日沿道の早期全線整備を要望 H23年10月:秋田県知事と能代市・北秋田市長などが国土交通大臣に日沿道の早期整備を要望

H23年10月:秋田県知事が県道の現道活用区間は来年度着工の旨を発言

#### ふたつい いまいずみ

# <u>一般国道7号 二ツ井今泉道</u>路に係る新規事業採択時評価

# 1. 事業概要

のしろ ふたついまち こつなぎ きたあきた いまいずみ

・起 終 点:秋田県能代市ニツ井町小繋~北秋田市今泉

•延 長 等: 4. 5km(2車線、設計速度80Km/h)

・全体事業費:約160億円

·計画交通量:約12,000台/日

乗用車	小型貨物	普通貨物	
約 6,600台/日	約1,900台/日	約3,500台/日	

·総 費 用 : 139億円 ・総 便 益 : 約196億円

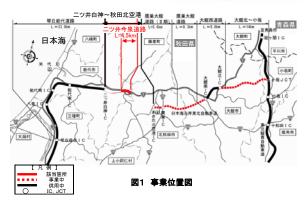
•B / C : 1.4

·経済的内部収益率(EIRR): 6.2%

※1:総費用・総便益については、基準年 (H23)における現在価値を記入

※2: 総便益には3便益(走行時間短縮便益、 走行経費減少便益、交通事故減少便益) を計上。





# 2. 地元調整の経緯等

### 地元調整等の状況

H23年2月:アンケートで地域の課題と政策目標、対策案に対する意見を聴取

H23年8月:計画段階評価(試行)の完了

(東北地方小委員会としての対応方針が決定)

H23年10月:公共事業評価専門委員会(秋田県・あきた北空港西線部)

#### 地域の要望等

H21年 9月:東北経済連合会長が国土交通大臣に日沿道の早期全線整備を要望

H23年10月: 秋田県知事と能代市・北秋田市長などが国土交通大臣に日沿道の

早期整備を要望

H23年10月:秋田県知事が県道の現道活用区間は来年度着工の旨を発言

# 3. 道路交通上の課題

- ①救急医療施設への速達性
- ・秋田県北地域の基幹病院である北秋田市民病院に60分で到達出来ない地域が存在 (秋田県北地域では人口の約2割(約4.8万人)が60分圏域外)(図3)
- ②災害発生時における幹線道路の通行止め
- ・能代市~大館市間の国道7号は災害に対し脆弱な区間が存在(図2)
- ・H19豪雨では米代川の河川増水に伴い国道7号沿線集落に避難指示が発令 救援・救助活動を要する地域に対し信頼性の高い緊急輸送道路が未確保(図2)
- ・災害による通行止めが発生した際には、広域迂回が強いられる(図2)



4. 整備効果

整備効果は現在事業中の供用効果を含む

効果1 救急医療施設への速達性向上

・高速ネットワークを延伸することで、救急 医療施設への搬送時間が短縮するととも に60分圏域が拡大(図3)

八峰町役場〜北秋田市民病院間: 63分 → 51分(12分短縮) 県北地域における60分圏人口 21.8万人→23.9万人(2.1万人増)

### 効果2 緊急輸送道路の確保と現道行止 め時の代替ネットワークの形成(図2)

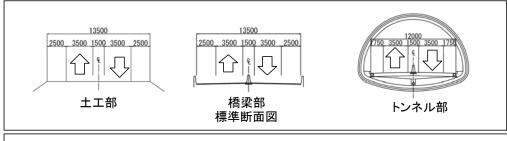
- ・当該区間と国道7号のいずれかが通行 止めになっても、第1次緊急輸送道路を 確保
- ・国道7号通行止め時の広域迂回を解消



図3 北秋田市民病院60分圏域図(当該区間整備後)

# 一般国道7号 二ツ井今泉道路に係る新規事業採択時評価





# 費用対便益の詳細

				139億円	総便益	196億円	基準年	
l	D /O	1.4	事業費:	128億円	走行時間	間短縮便益:151億円	平成23	年
	B/C	1.4	維持管理	<b>埋費:11億円</b>	走行経	費減少便益30億円		
					交通事	<b>故減少便益15億円</b>		

